

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
507	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Alcohol intake over the life course and mammographic density. 生涯にわたるアルコール摂取とマンモグラフィー濃度	
<b>執筆者</b>	
Flom JD, Ferris JS, Tehranifar P, Terry MB.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Breast Cancer Res Treat. 2009 Oct;117(3):643-51. Epub 2009 Jan 29.	
<b>キーワード</b>	
アルコール、マンモグラフィー濃度、乳癌、危険因子、生涯	
<b>要 旨</b>	
<p>アルコール摂取は乳癌のいくつかの修正可能な危険因子の 1 つである。いくつかの研究が現在と生涯の平均アルコール摂取の影響を検討した結果、現在のアルコール摂取が乳癌リスクの強い中間マーカーであるマンモグラフィー濃度と関連していた。著者はニューヨーク出生コホートからの 262 人の参加者 (1959-1963 生まれ) にインタビューをし、163 人から (参加者のうち 71.5%) マンモグラフィーを得た。種類ごとの 10 年毎のアルコール摂取についての情報を集めた。現在と生涯の平均アルコール摂取とデジタル画像からの定量的測定から得られるマンモグラフィー濃度との関連を評価するために多変量線形回帰モデルを使用した。全体として、現在のアルコール摂取は生涯の平均アルコール摂取より強くマンモグラフィー濃度と関連していた。非飲酒者と比べると、毎週 7 日以上現在の飲酒者は平均 12.3% (95%CI: 4.3, 20.4) の高濃度をもつ。それは生涯の平均アルコール摂取、年齢、BMI を調整している。赤ワインの摂取とマンモグラフィー濃度とは一貫した負の関連を認め、それはマンモグラフィー濃度と全体的アルコール摂取の正の関連が他の種類のアルコール飲料によるものであることを示唆した。この結果は現在のアルコール摂取と増加したマンモグラフィー濃度との関連が生涯の平均アルコール摂取と独立したものであることを支持した。以上より、本研究は現在のアルコール消費の減量が、特にビールと白ワインでは、それまでの飲酒に関わらず、マンモグラフィー濃度を下げる効果があることを示唆する。</p>	